

質問書に対する回答

(件名) 上信越自動車道 関伽流山トンネル（上り線）補強工事

No.	質問箇所	質 問 事 項	回 答
1	質問に対する回答⑦No. 4 発注図面1(102/107)交通 規制安全設備工図	質問に対する回答⑦ No. 4において「H鋼置き仮設ガードレールの設置は、土留くい（親杭）打設や覆工受台施工期間も設置とお考えください。」と回答があります。仮設防護柵を設置しない状態で下流側のH鋼置き仮設ガードレール（5m×3基）を設置すると、仮設防護柵の端部に一般車両が衝突するリスクが高まり、反って一般車両に対して安全が確保できないと判断した場合は、施工計画に基づき設置数量を変更しても宜しいでしょうか。	具体的な提案内容に関する質問については、お答えできません。 入札公告説明書4-5. 技術提案の内容に関するヒアリング等で確認いたします。
2	質問に対する回答⑦No. 5 発注図面1(102/107)交通 規制安全設備工図	質問に対する回答⑦ No. 5においてH鋼置き仮設ガードレールについて「設置位置はインバート施工区間の前後となります。したがって、インバート施工区間内での仮設防護柵の盛替えに合わせてH鋼置き仮設ガードレールの移動は必要ありません。」と回答があります。このことから仮設防護柵を盛替えた後には、仮設防護柵とH鋼置き仮設ガードレールとの間に開口部が生じることが想定されます。一般車両が掘削箇所に落下することに対する安全対策は、掘削箇所の真横に設置する仮設防護柵のみで、斜め方向からの進入は考慮しないと考えれば宜しいでしょうか。	具体的な提案内容に関する質問については、お答えできません。 入札公告説明書4-5. 技術提案の内容に関するヒアリング等で確認いたします。
3	質問に対する回答⑥No. 1	質問に対する回答⑥ No. 1において「1 回のコンクリート打設延長は30mまたは、3 スパン以内としています。その隣の数スパンを残して、さらに30mまたは、3 スパン以内の掘削を行ってもよいでしょうか。」の質問に対して、「可能です。」と回答があります。数スパン残して施工する際には、数スパン残した箇所を工事車両出入口として使用するため仮設防護柵を設置しないで、仮設防護柵が連続しない（開口部が空いた）状態で施工することは可能でしょうか。	具体的な提案内容に関する質問については、お答えできません。 入札公告説明書4-5. 技術提案の内容に関するヒアリング等で確認いたします。
4	発注図面1(15/107)目隠し フェンス工・仮設防護柵 工・脱輪防止工図（1）	発注図面1(15/107)の平面図から仮設防護柵を3 スパンずつ転用する計画であると考えられます。初めに3 スパン置きにA・C区間全線に仮設防護柵を設置しておき、A・C区間全線で3 スパンごとのコンクリート打設が完了した後、一度に仮設防護柵を転用する施工計画は可能でしょうか。	具体的な提案内容に関する質問については、お答えできません。 入札公告説明書4-5. 技術提案の内容に関するヒアリング等で確認いたします。
5	技術提案における施工条件書（2/5）車線規制 発注図面1(102/107)交通 規制安全設備工図	工事車両出入口に関して、工事車両が通行車線から規制内に進入した後に必要な停止距離についての記載が条件書にはありません。必要な停止距離は施工者が決めれば宜しいでしょうか。	「技術提案における施工条件書(2/5)」車線規制に示すとおり、工事規制区間の速度制限は50Km/hです。必要な停止距離は制限速度を踏まえて、お考えください。